

ちよつとしい話

～ さまよ 彷徨う心 ～

明治天皇の詠うたに「よき友に まじわりてこそ おのずから 人の心も たかくなりけれ」と、今日でも教訓として実践すべきです。現在は何事も自由であり、数の論理にて数の多いほうが正論と言う事になってしまう事が多いようです。世の中、善玉のほうが必ず多いとは言えず、数のみで物事を決めてしまうのは危険な事です。危険回避の爲にはまず善玉の養成です。人格の高揚が相互に行われ、自身に責任の執れる教育と同時に徳育を学ばせる教育が肝要です。教育に関しましては第11号を参照して下さい。今や情緒不安定、心神喪失まどを身に纏った人間が増え続け、危険極まりない状態です。一日も早く国民同士が信じあえる世の中になり、**オレオレ詐欺**や**カード詐欺**等の心配が無い社会になる事を願います。信じる、信じられる、と言う信仰の基本については第26,27号の「心がけ、思いやる心」を参照して下さい。

日暮ひぐらしが神仏から始まる家庭に悪玉は育ちません。勅語ちよくごに「父母に孝、兄弟に友に夫婦相和あいわし」とありますが父母に対しては介護、施設で税金を使い、父母に財産があれば兄弟はけんか別れ。私的に結婚し私的に別れた夫婦、なのに母子家庭になると、公的な國から奨励金（補助金）が支払われる。國の政策も悪いが、一体家族とはなにか？こんな家庭は社会悪です。そうは思いませんか？税金は平等に使うべきです。国民一人あたり約650万円の借金を背負っている現状、日本國家が破産宣告を受けた観です。家族の在り方について考える時期に来ていると思います。佛教に「三界唯一心」とあります。それは世の中全て一心から出た影像であり、心を離れては存在しない、と言う意味です。東条英機は「さらばなり 有為の奥山 今日越えて 弥陀のみもとに 行くぞうれしき」と心境を詠む、最後はこうありたいものです。

善入院油掛地藏尊